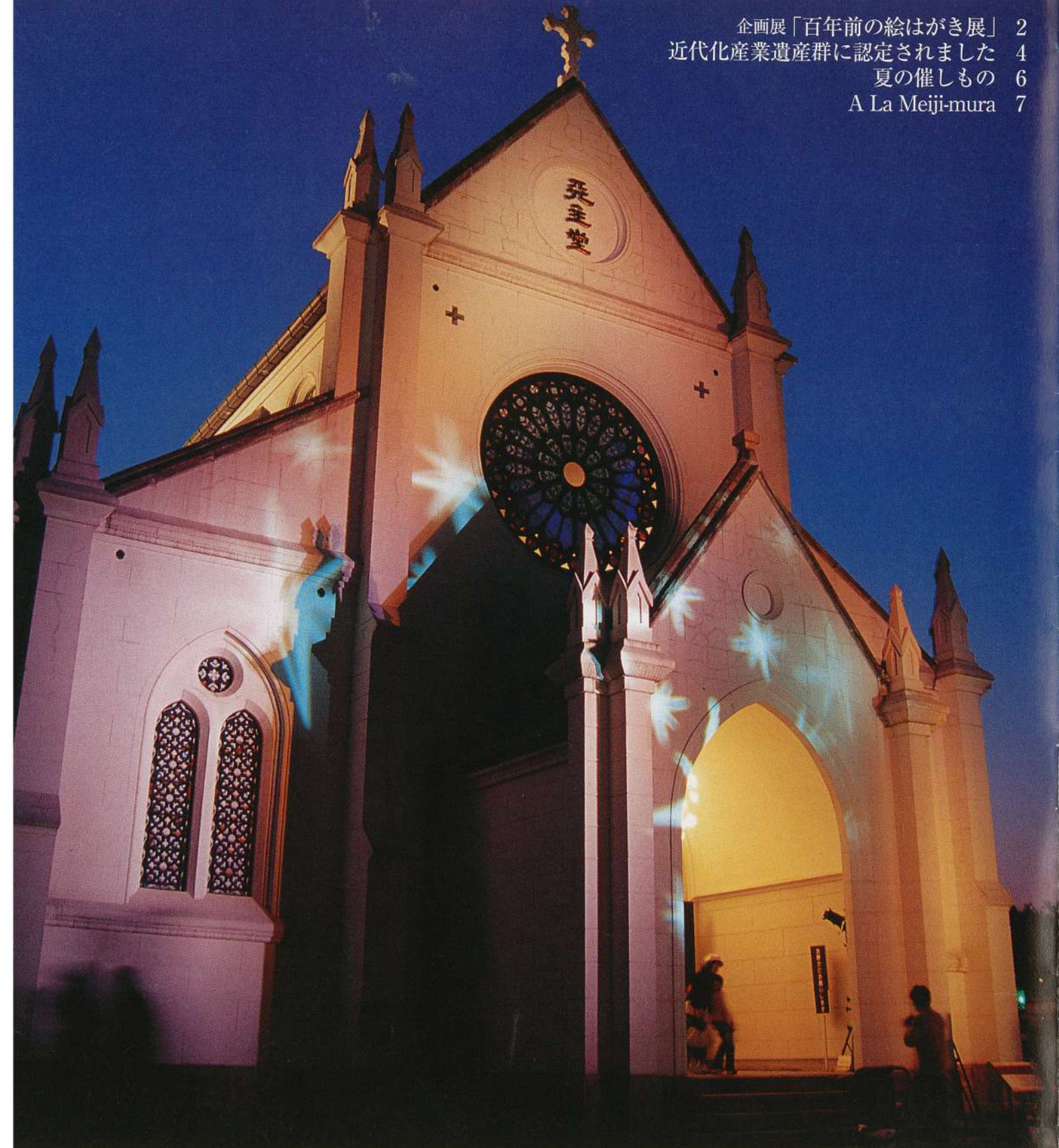


# MEIJI MURA

明治村だより

Vol.56 2009 Summer

企画展「百年前の絵はがき展」 2  
 近代化産業遺産群に認定されました 4  
 夏の催しもの 6  
 A La Meiji-mura 7



平成 21 年 7 月 13 日発行  
 「明治村だより」第 56 号 (平成 21 年 夏)  
 発行 博物館明治村  
 〒484-0000 愛知県大山市内山一番地  
 電話 (0568) 67-0314  
 http://www.meijimura.com  
 製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第 57 号発行のお知らせ  
 発行時期 平成 21 年 9 月中旬 (予定)  
 申込方法 「明治村だより」第 57 号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料 140 円切手とともに封書にてお申し込み下さい。

表紙「薄暮のライティングショウ」 鎌田芳郎 撮影

◎お詫び/先号 (Vol.55) の 4 ページの表 2 に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。  
 【表 2 No.23】 東京銀行集会所 震害 ○ → 東京銀行集会場 震害 ×

# 企画展「百年前の絵はがき展」

〔7月26日まで〕

「本来の使い方をしながら残す」、これは博物館明治村の重要な使命のひとつです。村内4丁目46番地に移築されている宇治山田郵便局では、現在もお郵便局としての業務が行われています。

宇治山田郵便局は、郵便制度が始まって間もない、明治五（一八七二）年三重県度会郡の個人住宅の一部に、わずかに四坪（十三・二坪）の山田郵便役所として創設されました。以降四十年近く、電話や電信事業などの事業拡大に伴い局舎を転々としながらも、長年にわたる伊勢市民や神宮参拝者に親しまれてきました。現在、明治村へ移築されている局舎は、明治四十二（一九〇九）年五月二十三日、山田郵便局として、三重県宇治山田市大字豊川町字前野121番地の11（伊勢神宮外宮前）に新築されました。

現在、宇治山田郵便局の局舎創建百年を記念して、「百年前の絵はがき展」を7月26日まで行っています。この企画展では、明治・大正期に発行された関東大震災の模様を伝える絵はがきや、明治村に移築された建造物が現地にあった当時の様子を写した絵はがきなど、新美俊英氏、西田弘志氏より寄贈を受けた館蔵絵はがき百五点をご紹介いたしました。

絵はがきのはじまりは、明治六（一八七三）年に「郵便はがき」が発行されたことに端を発するといわれています。しかしながら、官製つまり当時の駅通票が発行されたはがき以外の使用は禁じられており、表面に装飾が加えられると一銭の葉書料金に対して4銭の徴税

がされたため、単調なデザインのはがきが主流でした。

明治三十三年（一九〇〇）年十月一日に郵便規則が一部改正され、これまで禁止されてきた私製はがきの使用が許可されました。これ以降、絵はがきは明治時代の人々のあいだで広く普及しました。普及を促した要因のひとつとして、通信省が発行した記念絵はがきの流行が挙げられます。記念絵はがきは、発売数が限定されていた事もあり収集の対象として人気を博し、明治時代に二十五回発行され、その種類は七十九枚にのぼったといわれています。もうひとつの要因として、日露戦争中、軍事郵便として絵はがきが盛んに利用されたことによるといわれています。戦争中、戦地から発信されるはがきについては、郵便料金が免除されていました。そのため、現地の様子を伝える手段として、戦地などが写された絵はがきが日本に住む家族や友人に向けて発信されました。

このように当時の人びとにとって、新たに建物が竣工された際、盛大に祭りが催された際、あるいは地震や火災、戦争などの事件が起きた際、その様子が精細に印刷された絵はがきは活字中心で線画による挿絵程度であった新聞以上に、視覚に訴えかけるメディアでもありました。今回の展示では、かつて絵はがきを手にした人たちと同様に、これらの絵はがきに印刷された百年前の建物や町並みを眺めることで、当時のハイカラで活気溢れる建物や街の雰囲気を感じていただければ幸いです。

場案内図も出品いたしましたので、百年前の博覧会にタイムスリップしていただけるのではないのでしょうか。

## ■絵はがきが伝える関東大震災

大正十二（一九二三）年九月一日の午前、関東地方をマグニチュード七・九の大地震が襲いました。その震災によって被害を被った建物や町並みの様子を印刷した絵はがき（写真3）は、まさに現場の模様を遠く離れた土地の人びとにも伝える情報媒体として、現在の新聞やニュースのような存在であったと考えられます。



写真3

## ■明治村オリジナル絵はがき

明治村では、昭和四十年の開村以来、様々な絵はがきを発行しています。明治村簡易郵便局開局記念絵はがき（写真4・非売）をはじめ、近岡善次郎氏ほかの画家によつて描かれた建物など、バラエティーに富んだ絵はがきをご紹介いたしました。



写真4

以上のような絵はがきの展示と併せて、宇治山田郵便局のこれまでのあゆみを写真（写真5、6）や地図、年表に

## ■明治村の建物・建造物の当時の姿

帝国ホテル（写真1）や西郷従道邸、赤坂離宮正門哨舎などの明治村の建造物や、日本赤十字社本社、新橋停車場など明治村にゆかりのある建物が、現地に建てていた当時の様子を写した絵はがきを展示いたしました。現在、明治村へ移築され、みなさんが目にする建物と見比べていただくのもおもしろいと思います。



写真1

## ■百年前の街並み

明治時代に入ると、名古屋市内にも栄町通りや広小路通りなどの中心部には洋風の建物が建ち始めました（写真2）。これらの洋風建築の立ち並ぶ市内中心部の様子や、街のシンボルとなった建物の絵はがきをはじめ、真宗大谷派名古屋別院（東別院）など、明治以前から

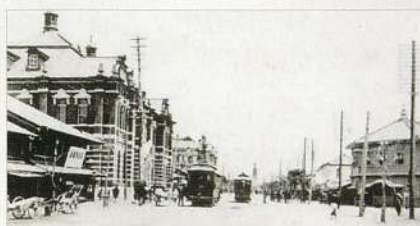


写真2

で紹介したパネル展示と、通信総合博物館よりご提供いただいた「郵便の今昔」た「郵便の今昔」パネル展示も行っていきます。また関連イベントとして、五月中の毎週土・日曜日には通信総合博物館よりお借りした、明治時代の郵便局外務員の制服、および水戸藩の飛脚の法被を来館者の方々に着ていただくイベントも併せて開催いたしました（写真5）。

今回の企画展では、宇治山田郵便局が創建された百年前の建物や町並み、そして絵はがきに触れていただくことで、宇治山田郵便局という建物を改めて見直し、明治期に創始された郵便事業の歴史を身近なものとする契機になったのではないかと思います。



写真5



写真6

## ■百年前の名古屋の博覧会

開府三百年を祝う記念事業の一環として、産業と文化の振興を目的とした第十回関西府県連合共進会が誘致され、鶴舞公園で開催されました。関西府県と銘打ってはいいましたが、実際には九州・東北・北海道を除く三府二十八県が参加し、出品点数も十二万九千七百六十六点という最大規模の共進会となりました。

会場にはこれらの府県からの出展に対応するため、様々な建物が用意されるだけでなく、舞踊館などの余興場の設置や、夜間のイルミネーションの実施などにより、九十日間の会期中に来場者は二百六十万人に達したといわれています。

展示では、会場内の模様や各パビリオン、そして夜間イルミネーションの絵はがきと併せて、共進会の会

# 明治村の資料が近代化産業遺産群に認定されました

「近代化産業遺産群」とは、経済産業省により「近代化産業遺産の価値を顕在化させ、地域活性化に役立てることを目的として、産業史や地域史のストーリーを軸に、相互に関連する複数の遺産により構成される」ものとして、平成十九年度、平成二十年度それぞれ三十三のストーリーがまとめられました。それぞれの遺産群は、単一の資料ではなく、文字通り産業や地域の歴史が概観できる複数の資料群から構成されています。

昨年度認定された分は「明治村だより 五十一号」に掲載させていただきましたが、加えて、今年度は下記の七つの遺産群に複数の資料が認定されました。

平成21年2月23日、大阪市中央公会堂での表彰式の様子（中央が飯田館長）

〈重要文化財〉 呉服座



近代社会の発展とともに花開いた都市の娯楽・消費文化の歩みを物語る近代化産業遺産群

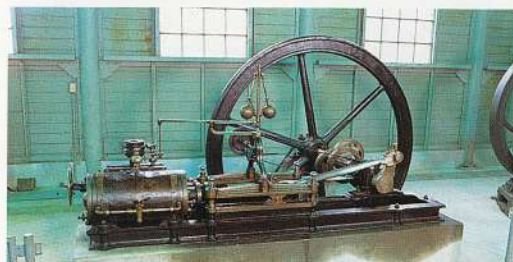
芝川又右衛門邸



阪急・今津線沿線の開発のきっかけともなった郊外住宅

鉄道を軸とする多角経営により創造された「私鉄沿線生活文化圏」の発展の歩みを物語る近代化遺産群

横型単気筒蒸気機関



官営富岡製糸場で使用されたもので、お雇い外国人ブリュナーンによってもたらされたといわれ、ブリュナーンエンジンとも呼ばれる。

重工業から農林漁業まで幅広い産業を支えた蒸気・内燃機関発達の歩みを物語る近代化遺産群

明治十一年に明治政府の官営工場赤羽工作局で製作され、岩手県内で使用されたもの。



〈重要文化財〉 菊花御紋章付平削盤  
(岩手県立盛岡工業高校 寄託)

近代の「日本のものづくり」を根柢から支えた工作機械・精密機器の歩みを物語る近代化遺産群



バイオリン  
(鈴木バイオリン)

ピアノ  
(日本楽器製造)



オルガン  
(名古屋・三輪オルガン)

オルガン  
(日本楽器製造)

森林資源と伝統技術を基盤として多分野に発展した東海地方の木材加工業の歩みを物語る近代化産業遺産群

〈重要文化財〉 品川燈台



台場鼻潮流信号機  
(社)燈光会 寄託



〈重要文化財〉 菅島燈台附属官舎



神島燈台レンズと水銀槽式回転機械  
(社)燈光会 寄託



霧笛  
(社)燈光会 寄託



霧笛蒸気機関  
(社)燈光会 寄託

安全な船舶航行に貢献し我が国の海運業等を支えた燈台等建設の歩みを物語る近代化産業遺産群

六郷川鉄橋



隅田川新大橋



大量輸送を支えるため近代化・国産技術化が急がれた鉄橋・鋼橋の歩みを物語る近代化遺産群

自動地球儀時計 (豊橋時計製造株式会社)  
頭丸絵硝子置時計 (尾張時計株式会社)  
八角合長掛時計 (林時計製造所)



レントゲン機械保護箱



現在楽器メーカーとして知られる日本楽器製造株式会社(ヤマハ株式会社)が特注家具の製作を開始した直後のもの。(レントゲン機械は島津製作所、保護箱は日本楽器製造株式会社)

工部省品川硝子製造所は、明治六（一八七三）年に国産板ガラス製造を目的に設置された興業社が前身です。しかし興業社は板ガラスの製造は適わず、事業は明治九（一八七六）年に官営の工部省品川硝子製造所として引き継がれ、工部省品川

（写真1）

明治村一丁目建つ西郷従道邸は明治十年代初めに建てられた本格的な西洋館です。カーテンボックス、扉金具、階段等、内部を飾る部材のほとんどは輸入品でまかなわれ、そして窓ガラスもまた、創建時には高価な舶来品が使われていたと考えられています。

当時の板ガラスの製造法は「手吹き円筒法」といわれるもので、近世ヨーロッパで発達した製法です。溶けたガラスを吹棒の先から吹出し、職人が息を吹いて棒を振り円筒状にします。そして両端を切った円筒部分を冷まし縦割りにし、再び窯で熱しながら平らに広げ板状にするというもので、職人の高い技術と体力が必要とされました（写真1）。

## ちょっと昔のガラス窓

●西郷従道邸（1丁目8番地）

硝子製造所も興業社同様「手吹き円筒法」を用い、板ガラス製造を試みますが、結局成功せず、明治十七（一八八四）年、西村勝三らに払い下げられました。以後事業者が何人か入れ替わり、板ガラスの製造がその後何度も試みられましたが、いずれも成功しませんでした。明治四十年、旭硝子株式会社（ベルギーから手吹き円筒法の設備を譲り受け、ちよど百年前の明治四十二（一九〇九）年、ようやく国産の板ガラス製造に成功しました。この間輸入され続けた板ガラスは、明治の人々に熱狂的に歓迎され、洋風建築はもろろんのこと、和風建築にも急速に用いられるようになりました。しかし、破璃板と呼ばれる水品にもたえられた貴重品でした。

西郷従道邸の窓ガラスの中に、模様をついたガラスが一部あります。玄関入口扉の上部、ファンライトの部分（写真2、3）と、階段下奥の扉の部分（写真4、5）です。これは透明ガラスに摺り加工を施して装飾した「小紋ガラス」と呼ばれていたものです。摺り加工とは砂摺り、砂吹き、腐食などの方法で艶消しをおこなうもので、日本

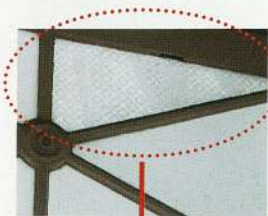


写真2



写真3



写真4



写真5

ではよく用いられた板ガラスでした。旭硝子も明治四十二年にベルギーからサンドブラスト機を導入し、ガラスの表面に砂を強く吹きつける砂吹きを行っています。また、長崎の川添硝子株式会社が明治三九（一九〇六）年、板硝子砂摺機の特許を出願し、その後飛躍的に住宅に使用されるなど広まったとも言われています。

このガラスは砂吹きや砂摺りに、着物の型染めに使われる江戸小紋の技法を応用したものです。そのため小紋ガラスと言われ、亀甲、麻の葉といった縁起がよいといわれる日本の文様が多用されたといわれています。

西郷従道邸の隣に建つ、森鷗外・夏目漱石住宅は明治二十年頃に建てられたといわれる住宅ですが、和室には一部摺り加工のされたガラス障子（写真6）が使われています。さらに裏廊下には珍しい結霜ガラス（写真7）と呼ばれるガラスが残り残っています。結霜ガラスとは、摺りガラスの表面にゼラチンや膠等の混合液を薄く塗り加熱し、乾燥して固まった膠液をガラスの表面層と共に剥ぎ取ると、あたかも霜が降りたような模様が出来るというものです。これ



写真6



写真7

は自然作用なので、同じ文様は二つとありません。結霜ガラスは、大正十年から昭和十四年頃まで盛んに製作されましたが、戦後は人件費高騰などのため、もっぱら輸入に頼るようになりました。

建物の窓ガラスは破損しやすく、取り替えられることが多いので、住宅に取り付けられた当初のガラスの種類や製造年代を特定することは困難ですが、古い建物には新旧入り混じったガラスが使用され、取り付けられた各々の時代を物語っています。窓ガラスはいつの間にかアルミサッシの厚い透明ガラスが普通になり、少し前まで、熟練した技術者や職人による手仕事で作られた装飾性のある板ガラスが存在していたことを、私達は忘れてしまっているようです。

（※）井上硝子氏のご教示による

### 【参考文献】

- 国立科学博物館 資料番号 102210261288
- 国立科学博物館 資料番号 102210261283
- 『日本近代産業史第4編 硝子工業』大正5年
- 『ガラスと建築』杉江重成著 科学新書 昭和16年
- 『ガラスと建築』MAX BOOKLET Vol.19 平成2年
- 『社史』旭硝子株式会社 昭和42年

## 宵の明治村\*

期間：8月8～16日

期間中は夜9時まで開村 ※荒天時は延長開村中止

期間中は浴衣姿の女性は終日入村無料  
（浴衣姿の男性は入村割引）



### 花火競演

荒天（強雨・強風など）中止

夏の夜空に咲き誇る、鮮やかな花火の競演をお楽しみください。皆のカウントダウンで開始！

■ 場所 所/帝国ホテル中央玄関前 芝生広場一帯  
■ 時間 間/20：30～



### 9DAYS・JAZZナイト

荒天（強雨・強風など）中止

地元名古屋を中心に活躍するジャズバンドによる野外特設ステージでのお洒落なジャズコンサートです。

■ 場所 所/帝国ホテル中央玄関前 芝生広場特設ステージ  
■ 時間 間/19:00～、20:00～  
■ 出演 演/デニスウィルコックス他  
※出演者は日によって異なります。

### 「吉本純情“笑”学校」夏の呉服座特別公演

吉本興業の芸人たちによるお笑い満載のコントです。

「タイムトラベル メイジ号によろこそ」

時間を旅する船「メイジ号」がついに完成！皆さんを明治時代にご案内。しかしこの船欠陥だらけで、乗客の皆さんはとんでもない事件に巻き込まれてしまいます。ドタバタ乗組員でお届けする痛快コメディ。是非ご乗船ください！

■ 開演時間 /11:30～、13:30～、15:30～、18:00～、19:00～  
（各回約30分・入替制 ※18:00～と19:00～はおまけ付き）  
■ 観劇料 /500円（小学生以上）  
■ 出演 演/中臣陵、金澤善幸、池田幹久、井上祐司、渡辺裕樹、北口晋也、今村有希  
■ 制作 作/吉本興業株式会社

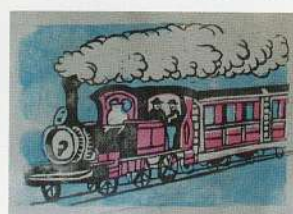
### ライトアップ明治村「2009夏」

明治の建物と町並み、京都市電などが宵の村内を美しく彩ります。

■ 場所 所/帝国ホテル中央玄関・内閣文庫・川崎銀行本店・隅田川新大橋・菊の世酒蔵・聖ザビエル天主堂・宇治山田郵便局・東山梨郡役所ほか

## 夏の催し（8月31日まで）

### 夏休み子供向け企画「錦絵の多色摺り体験」



木版画の多色摺りを体験していただく、夏休み限定企画です。版を摺り重ねていく多色摺りや単色摺りの版画を体験していただき、あわせて表現の違いを学んでいただきます。版は明治時代の多色摺り木版画「錦絵」をモチーフにしたものを用意しています。お気軽にご参加ください。

■ 開催日 /8月9日（日）、16日（日）、23日（日）、30日（日）  
■ 時間 間 /10:00～12:00、13:00～15:00  
■ 会場 /三重県庁舎1階

### 明治の夏の暮らし（村内各所）夏を涼しく過ごす為の昔の人々の工夫をご紹介します。

#### 村の夏“喜”氷フェア

村内の飲食店では美味しく冷たい個性豊かな、かき氷が勢ぞろい！  
■ 場所 所/尾張茶寮店/食道楽のカフェ店/食道楽のコロッケ店/デンキブラン沙留バー/小倉ドッグ店/明治村食堂/帝国ホテル喫茶室/洋食屋浪漫亭

#### 夏季限定メニュー

天然水足浴＜冷水＞「半田東湯」  
夏は尾張富士の天然水そのままのひんやり冷たい足浴でリラックス！

※催事内容は予告無く変更・中止する場合がございます。詳しくはお電話でお問合せいただくか明治村公式HPをご覧ください。

お問い合わせ先

<http://www.meijimura.com/> または 0568-67-0314